九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Tailored notification encouraging examinees with abnormal glucose levels in health checkups to seek medical care

永渕, 美樹

https://hdl.handle.net/2324/4784454

出版情報：Kyushu University, 2021, 博士（看護学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

（様式６－２）

氏　　名	永渕　美樹
論　文　名	Tailored notification encouraging examinees with abnormal glucose levels in health checkups to seek medical care （健診による高血糖指摘者への医療機関受診勧奨の検討）
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　鳩野　洋子 副　査　　九州大学　　教授　　諸隈　誠一 副　査　　九州大学　　教授　　寺岡　佐和

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

世界の糖尿病の有病率は高く、2019 年の時点での 4 億 6300 万人の糖尿病患者のうち 50.1%は糖尿病と診断されていないことが推計されている。日本において、糖尿病は特定健康診査の一環として広くスクリーニングが実施されているが、その結果により健診後に糖尿病の疑いで受診勧奨が行われても、未受診の者が多いことが問題となっている。

これらを背景に、本研究は、健診により血糖が高い値を示し、医療機関受診を勧められたにも関わらず医療機関未受診の者への受診勧奨において、ソーシャルマーケティングアプローチを用いて作成した受診勧奨メッセージの有効性を評価することを目的としたものである。

ソーシャルマーケティングアプローチに基づき、13 名の医療機関未受診者に対する半構造化面接が行われ、その結果により、アプローチの対象を受診意向の有無により 2 群にセグメント化し、セグメントに適した受診勧奨用紙を作成した。全国健康保健協会の一支部で特定健康診査を受診し、高血糖指摘後も医療機関を未受診であった 654 名へ電話により受診意向を確認し、電話で意向が確認された群を介入群(グループ１:受診意向あり群，グループ２:受診意向なし群)、電話で意向が確認できなかった群を対照群とした。介入群には、受診意向に応じた受診勧奨用紙を、対照群には既存の勧奨用紙を送付し、郵送後 3ヶ月後の医療機関受診率を比較した。グループ１(178 名)の医療機関受診割合は 20.8%で、対照群(452 名)の 11.1%よりも高かった。グループ 2(24 名)の対象者では医療機関を受診したものはいなかった。多重ロジスティック回帰分析の結果、作成した受診勧奨用紙は年齢、性別、血糖値の重症度には関係なく、医療機関受診勧奨年数とともに、医療機関受診に関係する要因として有意な関連がみられた(オッズ比 1.77、p＝0.02)。以上のことから、ソーシャルマーケティングアプローチに基づき作成された受診勧奨用紙は、高血糖を指摘されている対象者へ医療機関受診を促進することが示唆された。これは本研究が今後の糖尿病予備軍の医療のアクセス推進方策における一つの可能性を示したものと考えられた。

予備審査においては、審査委員より種々の質問が行われたが、それに対してはおおむね妥当な回答を得た。以上のことより、本論文を博士(看護学)の学位に値すると認める。